

「新時代とやまハイスクール構想」基本方針（新旧対照表）

頁	旧：基本方針（素案）	新：基本方針																								
表紙裏	【県立高校のあり方検討の進め方】 （追記）	【県立高校のあり方検討の進め方】 ・この方向性を基本とし、今後、常に「こどもまんなか」の視点で、具体的な内容を検討する。																								
1	【1. 県立高校を取り巻く状況の変化】 ・今後さらにあらゆる面で予測が困難になる「新時代」において、これまでの教育実績を踏まえながら、県立高校における教育のあり方を考える必要がある。	【1. 県立高校を取り巻く状況の変化】 ・この「新時代」においても高校生が明るい未来を描き、夢を叶えることができるよう、これまでの教育実績を活かしながら、これからの県立高校における教育のあり方を考える必要がある。																								
3	【（2）教育内容（学科構成）】 ⑧職業系専門学科 《教育内容》 ・進路を見据え、1年次から職業系の特定専門科目を履修し、各分野でのスペシャリストを育成する。	【（2）教育内容（学科構成）】 ⑧職業系専門学科 《教育内容》 ・1年次から職業系の特定専門科目を開設し、進路を見据えた専門教育を実践する。																								
4	（新設）	【（2）教育内容（学科構成） ⑧職業系専門学科】 ・「⑧職業系専門学科」については、「県立高校教育振興検討会議」の提言（令和6年4月）で以下のとおり、見直しの方向性が示された。 ・今後、各学科について、これら見直しの方向性に沿って、教育内容や必要となる教育課程等を検討する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学科</th><th>学科・コースの見直し</th><th>配置・定員設定等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農 業</td><td>・SDGsの実践、AIやIoTの活用、スマート農業技術の導入など、これからの農業に向けた知識や技術をもつことができるよう教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など学校外との連携の充実を目指す。 ・テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程を検討することが望ましい。</td><td>・地域との関わりが深い学科であり、農業を学ぶ生徒が地域に残りリーダー性を発揮していることや、農業技術を継承する一定の担い手は地域に必要であることから、各学区において農業を学習できる場を配置することが望ましい。</td></tr> <tr> <td>水 産</td><td>・水産産業化や関連産業に資する生徒の育成を目指す。 ・環境保全型の水産業に関する課題解決に向けた研究、実践の充実を目指す。</td><td>・生徒、産業界のニーズ等を踏まえ水産科をバランスよく配置することが望ましい。</td></tr> <tr> <td>工 業</td><td>・IT技術や産業用ロボット等を活用したデジタルものづくりを推進する担い手を育成するため、教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など、学校外との連携の充実を目指す。 ・現在行っている新たな取り組みを踏まえ、中学生により魅力が伝わるような学科改編や学科名の変更について検討することが望ましい。 ・近年多発する自然災害等を踏まえ、各学区で防災や社会基盤の維持などについて学ぶことができるよう、教育課程の変更やコースの新設について検討することが望ましい。 ・地域産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる担い手の育成等ができるよう、工業デザインに関する学科やコースの新設について検討することが望ましい。 ・職業実践能力を学ぶ取組みの充実を目指す。 ・商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。</td><td>・各地域の企業からのニーズが高いことや、卒業の産業を支える担い手を育成していく必要があることから、各学区において工業を学習できる場を配置することが望ましい。 ・中学生の選択肢を広げることができるよう、入学後に学科を選択できる一括募集の導入について検討することが望ましい。</td></tr> <tr> <td>商 業</td><td>・商業科の中核となる商業科単独校は、模範株式会社等の取組みや大学との連携など、これまでの様々な取組みを継続、充実させていくために必要な学校規模を維持することが望ましい。 ・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。</td><td>・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。</td></tr> <tr> <td>家 庭</td><td>・学習活動により身につけた衣食住、保育、福祉等の知識・技術を社会生活に活かす、家族やコミュニティの連携感を育むことで人々のウェルビーイングを向上させることができる取組みの充実を目指す。 ・SDGsに関連するエシカル消費や共生社会など実社会における課題解決等をテーマとし、課題研究のさらなる充実を目指す。</td><td>・将来、保育士や福祉師、栄養士など地域の生活関連産業分野に就事するため関連する上級学校への進学率が高いことから、家庭科の食物や繊維、福祉などの教育内容が学習できる場を配置することが望ましい。</td></tr> <tr> <td>着 議</td><td>・シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させ、看護実践能力を育成することが望ましい。 ・多様な臨地実習先において、様々な職種の人々との協働的な経験を通してコミュニケーション能力や豊かな人間性を育成することが望ましい。</td><td>・県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。</td></tr> <tr> <td>福 祉</td><td>・介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる生徒を育成することが望ましい。 ・多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実を目指す。</td><td>・県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。</td></tr> </tbody> </table>	学科	学科・コースの見直し	配置・定員設定等	農 業	・SDGsの実践、AIやIoTの活用、スマート農業技術の導入など、これからの農業に向けた知識や技術をもつことができるよう教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など学校外との連携の充実を目指す。 ・テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程を検討することが望ましい。	・地域との関わりが深い学科であり、農業を学ぶ生徒が地域に残りリーダー性を発揮していることや、農業技術を継承する一定の担い手は地域に必要であることから、各学区において農業を学習できる場を配置することが望ましい。	水 産	・水産産業化や関連産業に資する生徒の育成を目指す。 ・環境保全型の水産業に関する課題解決に向けた研究、実践の充実を目指す。	・生徒、産業界のニーズ等を踏まえ水産科をバランスよく配置することが望ましい。	工 業	・IT技術や産業用ロボット等を活用したデジタルものづくりを推進する担い手を育成するため、教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など、学校外との連携の充実を目指す。 ・現在行っている新たな取り組みを踏まえ、中学生により魅力が伝わるような学科改編や学科名の変更について検討することが望ましい。 ・近年多発する自然災害等を踏まえ、各学区で防災や社会基盤の維持などについて学ぶことができるよう、教育課程の変更やコースの新設について検討することが望ましい。 ・地域産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる担い手の育成等ができるよう、工業デザインに関する学科やコースの新設について検討することが望ましい。 ・職業実践能力を学ぶ取組みの充実を目指す。 ・商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。	・各地域の企業からのニーズが高いことや、卒業の産業を支える担い手を育成していく必要があることから、各学区において工業を学習できる場を配置することが望ましい。 ・中学生の選択肢を広げることができるよう、入学後に学科を選択できる一括募集の導入について検討することが望ましい。	商 業	・商業科の中核となる商業科単独校は、模範株式会社等の取組みや大学との連携など、これまでの様々な取組みを継続、充実させていくために必要な学校規模を維持することが望ましい。 ・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。	・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。	家 庭	・学習活動により身につけた衣食住、保育、福祉等の知識・技術を社会生活に活かす、家族やコミュニティの連携感を育むことで人々のウェルビーイングを向上させることができる取組みの充実を目指す。 ・SDGsに関連するエシカル消費や共生社会など実社会における課題解決等をテーマとし、課題研究のさらなる充実を目指す。	・将来、保育士や福祉師、栄養士など地域の生活関連産業分野に就事するため関連する上級学校への進学率が高いことから、家庭科の食物や繊維、福祉などの教育内容が学習できる場を配置することが望ましい。	着 議	・シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させ、看護実践能力を育成することが望ましい。 ・多様な臨地実習先において、様々な職種の人々との協働的な経験を通してコミュニケーション能力や豊かな人間性を育成することが望ましい。	・県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。	福 祉	・介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる生徒を育成することが望ましい。 ・多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実を目指す。	・県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。
学科	学科・コースの見直し	配置・定員設定等																								
農 業	・SDGsの実践、AIやIoTの活用、スマート農業技術の導入など、これからの農業に向けた知識や技術をもつことができるよう教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など学校外との連携の充実を目指す。 ・テクノロジーを生かした農業教育の実践、社会のニーズを汲み取った教育課程を検討することが望ましい。	・地域との関わりが深い学科であり、農業を学ぶ生徒が地域に残りリーダー性を発揮していることや、農業技術を継承する一定の担い手は地域に必要であることから、各学区において農業を学習できる場を配置することが望ましい。																								
水 産	・水産産業化や関連産業に資する生徒の育成を目指す。 ・環境保全型の水産業に関する課題解決に向けた研究、実践の充実を目指す。	・生徒、産業界のニーズ等を踏まえ水産科をバランスよく配置することが望ましい。																								
工 業	・IT技術や産業用ロボット等を活用したデジタルものづくりを推進する担い手を育成するため、教育内容の充実を目指す。 ・大学などの高等教育機関や地域など、学校外との連携の充実を目指す。 ・現在行っている新たな取り組みを踏まえ、中学生により魅力が伝わるような学科改編や学科名の変更について検討することが望ましい。 ・近年多発する自然災害等を踏まえ、各学区で防災や社会基盤の維持などについて学ぶことができるよう、教育課程の変更やコースの新設について検討することが望ましい。 ・地域産業においてデザインで付加価値を上げていくことができる担い手の育成等ができるよう、工業デザインに関する学科やコースの新設について検討することが望ましい。 ・職業実践能力を学ぶ取組みの充実を目指す。 ・商業科を普通科コース等に改編する場合の効果と課題について研究する。	・各地域の企業からのニーズが高いことや、卒業の産業を支える担い手を育成していく必要があることから、各学区において工業を学習できる場を配置することが望ましい。 ・中学生の選択肢を広げることができるよう、入学後に学科を選択できる一括募集の導入について検討することが望ましい。																								
商 業	・商業科の中核となる商業科単独校は、模範株式会社等の取組みや大学との連携など、これまでの様々な取組みを継続、充実させていくために必要な学校規模を維持することが望ましい。 ・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。	・商業科卒業生の上級学校への進学率が高いことなどから、普通科に併設された1学級の商業科については、普通科コース等への改編をすることが望ましい。ただし、他の職業系専門学科との併設により学科間の連携活動など魅力ある教育活動を進め、その必要性が高い場合は、当面存続させることが望ましい。																								
家 庭	・学習活動により身につけた衣食住、保育、福祉等の知識・技術を社会生活に活かす、家族やコミュニティの連携感を育むことで人々のウェルビーイングを向上させることができる取組みの充実を目指す。 ・SDGsに関連するエシカル消費や共生社会など実社会における課題解決等をテーマとし、課題研究のさらなる充実を目指す。	・将来、保育士や福祉師、栄養士など地域の生活関連産業分野に就事するため関連する上級学校への進学率が高いことから、家庭科の食物や繊維、福祉などの教育内容が学習できる場を配置することが望ましい。																								
着 議	・シミュレータ等最新の医療教材を用いた実習を充実させ、看護実践能力を育成することが望ましい。 ・多様な臨地実習先において、様々な職種の人々との協働的な経験を通してコミュニケーション能力や豊かな人間性を育成することが望ましい。	・県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。																								
福 祉	・介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる生徒を育成することが望ましい。 ・多職種協働やチームケアをより一層意識した協働的な課題解決型学習のさらなる充実を目指す。	・県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定を検討することが望ましい。																								

頁	旧：基本方針(素案)	新：基本方針(案)
5	【(3) 学校規模】 ・新時代HSは、大規模校、中規模校、小規模校で構成し、それぞれのメリットを活かした学校づくりを行う。 大規模校 400～480 人 ・令和 20 年度以降も見通した拠点校として大規模を設置する。 中規模校 200～240 人 ・現在の平均的な学校規模より大きくすることで、教員配置及び開設科目、部活動の数等を充実させ、生徒の選択肢の幅を広げる。 小規模校 ・現在の高校施設の活用を基本とする。	【(3) 学校規模】 ・新時代HSは、大規模校、中規模校、小規模校で構成する。 ・それぞれの規模において、メリットを活かした学校づくりを進めるとともに、教育効果を高める学校運営を行う。 大規模校 320 人以上 ・令和 20 年度以降も見通し、県内の拠点校として、現在の最大規模（320 人）以上の大規模校を設置する。 中規模校 121 人～320 人未満 ・中規模校として、121 人～320 人未満の学校を、県内にバランスよく配置する。 ①現在の平均的な学校規模（約 180 人）よりも大きな学校では、教員配置及び開設科目、部活動等を充実させ、多様な仲間と協働的な学びを实践する。 ②平均的な学校規模よりも小さな学校では、将来にわたって生徒から一定のニーズが見込まれる教育活動を展開する。 小規模校 ・現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。
6	【(4) 教育内容(学科構成)と学校規模の組合せと配置数の目安】 ・現行の公私比率をベースとして、令和 20 年度における県全体の募集定員は 4,000～4,500 人程度を見込むとともに、1 校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を見越して、現在(約 180 人)より多い 200～220 人程度に設定する。	【(4) 教育内容(学科構成)と学校規模の組合せと配置数の目安】 ・令和 20 年度における県全体の募集定員は現在の県立全日制高校の入学率比率も踏まえ、4,200 人程度を見込む。 ・令和 20 年度の 1 校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を見越して、現在(約 180 人)より多い 200 人程度に設定し、配置数の目安

頁	旧：基本方針(素案)	新：基本方針(案)
	・これにより学校数は、全県で20校程度を目安とする。 ・全ての学校を再構築して新しい学校を開設することとし、より広い範囲での学科改編が可能となるよう、配置は東西2つのエリアで検討する。 《表》 ・学科構成パターン（A）～（K） ・配置数の目安 全県20校 県東部エリア11～12校程度 県西部エリア8～9校程度 ・大規模校 配置数の目安 全県2～3校 県東部エリア1～2校 ・中規模校 配置数の目安 全県13～15校 県東部エリア8～10校 県西部エリア5～6校 ・小規模校 配置数の目安 全県3～4校 県東部エリア1～2校 県西部エリア1～2校	は全県で20～22校とする。 ・全ての学校を再構築して新しい学校を開設する<u>ため</u>、より広い範囲での学科改編が可能となるよう、配置は東西2つのエリアで検討する。 《表》 ・学科の構成パターン（A）～（I） ・配置数の目安 全県20～22校 県東部エリア11～13校程度 県西部エリア8～10校程度 ・大規模校 配置数の目安 全県2校 県東部エリア1校 ・中規模校 配置数の目安 全県15校程度 県東部エリア9校程度 県西部エリア6校程度 ・小規模校 配置数の目安 全県4校程度 県東部エリア2校程度 県西部エリア2校程度
7	【Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」】 ・令和20年度に、20校程度を目安とする新時代HSを設置することになるため、その5年前頃（令和15年度頃）まで、10年前頃（令和10年度頃）までに目指す「配置の姿」を描く。 ・生徒が<u>一定の通学時間内</u>にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。 《図》 ・【目指す姿】R20年度 20校程度 ・県西部エリア 新時代HS 8～9校 大規模校1校程度 中規模校5～6校程度 小規模校1～2校程度	【Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」】 ・令和20年度に、20～22校を目安とする新時代HSを設置することになるため、その5年前頃（令和15年度頃）まで、10年前頃（令和10年度頃）までに目指す「配置の姿」を描く。 ・生徒の<u>通学手段を考慮し</u>、一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。 《図》 ・【目指す姿】R20年度 20～22校程度 ・県西部エリア 新時代HS 8～10校 大規模校1校 中規模校6校程度 小規模校2校程度

頁	旧：基本方針(素案)	新：基本方針(案)
	・ 県東部エリア 新時代HS <u>11～12校</u> 大規模校 <u>1～2校程度</u> 中規模校 <u>7～8校程度</u> 小規模校 <u>1～2校程度</u> ・ <u>20校程度</u> 平均 <u>210人</u>	・ 県東部エリア 新時代HS <u>11～13校</u> 大規模校 <u>1校</u> 中規模校 <u>9校程度</u> 小規模校 <u>2校程度</u> ・ <u>20～22校程度</u> 平均 <u>200人</u>
8	【Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針】 ・「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿」の実現に向け、令和20年度までに新たな新時代HSを順次開設していくことになることから、「1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合」、「2. 学科・コースの改編等」、「3. 様々なタイプの学校・学科等の設置」、「<u>4. 施設・設備等の整備</u>」、「<u>5. 活力ある学校・組織づくり</u>」について、計画的に進める。	【Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針】 ・「令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿」の実現に向け、令和20年度までに新たな新時代HSを順次開設していくことになることから、「1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合」、「2. 学科・コースの改編等」、「3. 様々なタイプの学校・学科等の開設」、「<u>4. 入試制度の見直し</u>」、「<u>5. 施設・設備等の整備</u>」、「<u>6. 活力ある学校・組織づくり</u>」について、計画的に進める。
9	【1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合】 (3)(2)を検討するための組織として、令和7年度に「新時代とやまハイスクール構想検討会議(仮称)」を設置することとし、そこでの意見を取りまとめ、総合教育会議に報告する。<u>なお、第2期以降の開設に関する検討組織等については、必要に応じて別途決定する。</u>	【1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合】 (3)(2)を検討するための組織として、令和7年度に「新時代とやまハイスクール構想検討会議(仮称)」を<u>次のメンバー構成で設置すること</u>とし、そこでの意見を取りまとめ、総合教育会議に報告する。 <u><メンバー構成></u> <u>①知事(会長)、②教育長、教育委員、③学識経験者、④経済界の代表、⑤学校関係者、⑥保護者の代表</u> ※第2期以降の開設に関する検討組織等については、必要に応じて別途決定する。
10	【2. 学科・コースの改編等】 (1)新時代HSの学科・コースは、前述の8区分の<u>学科</u>をベースに、必要に応じて、それらの学科を組み合わせた形で設定する。	【2. 学科・コースの改編等】 (1)新時代HSの学科・コースは、前述の8区分の<u>教育内容</u>をベースに、必要に応じて、それらを組み合わせた形で設定する<u>こととし、社会の変化や生徒のニーズも踏まえながら、これまで本県にない特色ある教育内容の提供についても検討する。</u>

頁	旧：基本方針(素案)	新：基本方針(案)
11	【3. 様々なタイプの学校・学科等の開設】 (1) 新時代HSの開設にあたっては、前述の8区分の<u>学科</u>との親和性を踏まえ、「様々なタイプの学校・学科等」の開設についても検討することとする。 (2) 「中高一貫教育校」は、第2期での開設を目指し、<u>その目的や役割・機能を十分に整理し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議しながら、開設に向けた検討を進める。</u> (5) 「全国募集」については、まず南砺平高校での実施が軌道に乗るよう、南砺市等と連携した取組みを進めることとし、第2期にその効果や課題等も整理し、対象校拡大の可能性を地元の意向等も踏まえて検討する。	【3. 様々なタイプの学校・学科等の開設】 (1) 新時代HSの開設にあたっては、前述の8区分の<u>教育内容</u>との親和性を踏まえ、「様々なタイプの学校・学科等」の開設についても検討することとする。 (2) 「中高一貫教育校」は、<u>8区分の教育内容のうち、「STEAM」や「グローバル」について継続的かつ計画的に学べるよう、第2期での開設を目指すこととし、目的や役割・機能を十分に整理し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議しながら、開設に向けた検討を進める。</u> (5) 「全国募集」については、まず南砺平高校での実施が軌道に乗るよう、南砺市等と連携した取組みを進めることとし、第2期にその効果や課題等も整理し、対象校拡大の可能性を地元の意向や<u>継続的な受入体制の構築状況等</u>も踏まえて検討する。
12	(新設)	【4. 入試制度の見直し】 (1) 入試制度については、<u>社会の変化や他都道府県の状況を踏まえ、中学校・高校等の関係者と協議しながら検討し、必要な見直しを行う。</u> (2) 第1期での開設を目指す「外国人生徒に係る特別入学枠」における<u>選抜方法について研究し、中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。</u> (3) 第2期での開設を目指す「中高一貫教育校」に係る<u>選抜方法について研究し、中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。</u>

項	旧：基本方針(素案)	新：基本方針(案)
13	【<u>5</u>. 活力ある学校・組織づくり】 (1) 活力ある新時代HSの実現に向け、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める学校運営について検討し、可能なものから実施する。 <u>(新設)</u> (2) 生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイング向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進する。	【<u>6</u>. 活力ある学校・組織づくり】 (1) 活力ある新時代HSの実現に向け、<u>現場教員の意見を聞きながら</u>、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める<u>学校の組織や運営</u>について検討し、可能なものから速やかに実施する。 (2) <u>県立高校同士や学科間の連携活動を充実するとともに、部活動の魅力やレベルを向上させる観点も含め、県立高校の一層の特色化を図り、情報の発信力を強化する。</u> (3) 生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイング向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進する。
13	【<u>6</u>. その他】 (2) 高校時点での県外進学が増加傾向にある中、建学の精神のもとに特色ある教育を実践される「私立高校」と協調を図りながら、<u>富山ならではの魅力ある高校づくりを進める。</u>	【<u>7</u>. その他】 (2) 高校時点での県外進学が増加傾向にある中、建学の精神のもとに特色ある教育を実践される「私立高校」と協調を図りながら、<u>共に、より柔軟な発想で創意工夫を凝らし、富山県の高校教育の魅力を一層高めていく。</u>